

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

School Motto（スクール モットー）「Find a Way or Make One（見つけよう つくりだそう 明日への道）」のもと、社会の変化に臨機応変に対応し、主体的に学び、自らの可能性を拡げることができる生徒を育成し、地域から信頼される学校

（１）学びに向かう環境づくりの充実を図り、基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。

（２）授業・行事・部活動を通し、自ら考え、自ら計画し行動できる主体性及び継続力をより一層高める。

（３）自己を大切に、他者を尊重する心、地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

2 中期的目標

1 学びに向かう環境づくりの充実を図り、基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。

[「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進]

（１）新学習指導要領をふまえ、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」を確実に実施する。

ア 公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む。

イ 指導教諭を中心に、観点別学習状況の評価の進捗状況を共有し、教科横断的な研修会を行い、評価、改善を進める。

ウ 様々な課題を抱える生徒の支援に向けて、教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラー等の専門人材を活用した校内の支援体制の充実を図る。

（２）リーディング GIGA ハイスクール研究校として、１人１台の端末をより効果的に活用し、生徒が主体的に深く学ぶ授業改善への取組みを推進する。

※「ICT を活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取組みについて推進し、令和 8 年度に、それぞれの生徒肯定率について、90%、75%をめざす。

（R 3：88%・72%、R 4：84%・74%、R 5：91.3%・85.9%）

2 夢と志（目的意識）を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実

学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みをホームルーム活動、総合的な探究の時間等を通じて教育活動全体で行い、自主性・自立性を育成するキャリア教育の充実をめざす。

※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度（生き方や進路を考える教育）」の生徒の肯定率を、令和 8 年度に向けて、毎年、92%を超えるようめざす。（R 3：92%、R 4：97% R 5：94.5%）

（１）生徒の希望進路実現への取組み

ア 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。

（同窓生、地域の方等を講師として職業意識を高める進路講演会を行う。スケジュールの早期提供、模試の事前事後指導。面接練習の強化。志望理由書作成の添削など）

※ 年度当初の 4 年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、令和 8 年度に向けて、生徒の希望進路実現率を 4 年制大学合格率 90%、就職斡旋 100%を維持し続ける。（進学：R 3：91.2%、R 4：87.1%、R 5：89.4%／就職斡旋率は 3 年間 100%）

（２）国際理解教育と英語教育の推進

ア 平成 26 年度より、他の府立高校と合同での国際交流研修を継続してきた。また、令和 5 年度に 3 校合同実施を再開したが、継続的な運営にあたり課題整理が必要であり、引続き、実施内容・形態等について検討する。

イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。

ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検の受験を奨励し、令和 8 年度まで、受験者数 30 人以上を維持し、合格のための講習等を行う。

（R 3：48 人、R 4：23 人、R 5：24 人）

3 自ら考え、自ら計画し行動できる主体性及び継続力をより一層高める。

（１）部活動の活性化

クラブ加入の促進並びに生徒の学校生活の質の向上に取り組む。

ア 1 年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。

※ 1 年生のクラブ加入率・退部率を令和 8 年度に、それぞれ 70%以上、10%以下をめざし、加入率増加、退部率減少に取り組む。

（R 3：65.9%・12.8%、R 4：60.6%・13.1%、R 5：65.6%・0%）

イ 部活動における練習の効率化を通じて、生徒の時間を計画的に使う力の向上を図る。

（２）“規範意識＝基本的生活習慣”の醸成

ア クラブ代表者会議や部活動集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。

イ クラブ員を中心に、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髮・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。

※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率をそれぞれ、令和 8 年度に向けて、80%、85%以上を維持する。

（R 3：86%・88%、R 4：84%・81%、R 5：89.1%、73.4%）

※ 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。（・遅刻数 2000 回以下を目標とする。）

（R 3：2207 回、R 4：2417 回、R 5：2770 回）

ウ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、校内外のクリーンキャンペーンの実施、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。

※「清掃の状況」肯定率を生徒教員ともに令和 8 年度に向けて、それぞれ増加させる。（R 3：74%・47%、R 4：71%・57%、R 5：73%・47.6%）

エ 校内での挨拶の励行のため「こころの再生」にかかる挨拶運動などを行う。

（３）人権教育と教育相談機能のさらなる充実

ア 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。

※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率を、令和 8 年度に向けて、90%を維持する。（R 3：95%、R 4：95%、R 5：95.7%）

イ 教育相談委員会や支援委員会の機能とそれが行う研修とともに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。

カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底を図り学校全体での情報共有を行う。

SC と連携するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に積極的に周知し、相談室の利用を促進する。

※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒がいじめや困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生や SC に相談することができる」の生徒の肯定率をいずれも、令和 8 年度に 85%以上をめざす。（R 3：77%・88%・84%、R 4：74%・91%・86%、R 5：77.1%・91.2%・86.9%）

4 求められる魅力ある学校づくり[広報活動と地域連携の充実]

ア 授業、クラブ、生徒会活動で地域と積極的に交流を深めるなど、本校の教育活動についての理解を深めてもらう機会を増やすとともに、学校説明会・中学校訪問など効果的な広報活動の充実を図る。

イ ホームページ、メールマガジン、配布物等を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める。

5	学校の全体で取り組む教員集団の確立[教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み]
ア	防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。
イ	授業アンケート結果を分析、改善策の検討等授業力向上を図る。
ウ	新規採用教員・経験年数の少ない教員に対して、定期的に校内研修（管理職・首席・指導教諭を中心として）を行い OJT につなげ、教員の資質向上を図る。
エ	全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。とりわけ、部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行えるよう校内体制を見直し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 6 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
○ <u>生徒集計では、肯定的評価が大きく低下している項目はなく、概ね、本校の教育活動が肯定的に受け止められていると考えられる。</u> ・学校へ行くのが楽しい(89%)や、自分の学級は楽しい(91.7%)、授業はわかりやすく楽しい(84.4%)、実習、校外学習の充実(56.4%)、また、先生の指導に納得できる(81.7%)等の項目で、肯定的評価が向上している。小学校高学年から中学校生活をコロナ禍で過ごした生徒達が、生き生きと高校生活を送れるようになったことが要因の一つと考える。 ・生き方、社会のルール(96.3%)、人権の大切さ(98.1%)、進路について考える機会(96.8%)についても向上している。総合的な探究の時間は、6年、新教育課程は3年が経過し、本校の「探究」等の取組が成果を出していると考える。 ・ホームルーム活動の活発さ(90.4%)、行事の工夫(95.2%)、生徒会活動の活発さ(89.3%)、地域活動(73.0%)等の項目も肯定回答率が向上しており、「アフターコロナ」「探究」等の取組の成果と考える。 ○ <u>保護者集計では、生徒と同様に、「学校へ行くことが楽しい」、また、教育方針への理解、教職員との意思疎通、行事への参加等の項目で、肯定的評価が向上している。コロナの終息に伴い、保護者と学校の意味疎通の充実等が進んでいることが要因の一つと考える。</u> ・一方、授業の理解(59.8%)、いじめ等への対応(71.0%)については、評価が下がっている。これらの項目は、すべての保護者が、ご自身のお子さんへの生徒指導やいじめ等の当事者として回答されているわけではなく、イメージや、小中学校時代の指導との違いを感じられ、回答されている部分もあると思われる。小・中学校とは発達段階が異なり、個々の状況に即した本校の指導について、ご理解いただけるよう情報発信に努めなければならない。 ○ <u>教職員の集計では、新教育課程・観点別評価・ICTの活用等が、一定の成果が出つつある。教科を超えての議論(40.6%)、指導方法の工夫・改善(71.9%)、教育活動全般の次年度への検討(62.5%)、校内研修(65.6%)等の項目は降下している一方、日常的な議論や相談(65.6%)は、増えている。多様な生徒に適切に対応するための情報交換や対応状況の共有を密に行っている成果と考えられる。</u> ・この数年間の ICT 推進の取組が進み、適材適所での活用に落ちてきたこともあり、ICT 活用(84.4%)が低下するも、個人情報の管理(81.3%)については、向上している。 ・校務分掌や学年間の連携等の項目は降下している。ここ数年で、新教育課程以降、観点別評価、ICT 化、大学入試等の改革、生徒指導要綱の改訂等の教育に関する変化が多くあったため多忙を極めている。また、募集人員の変化に伴い教員定数の変化も続いている。業務の効率化、見直しの取組が引き続き必要と考える。 ・教職員の「働き方改革」の取組が進み、勤務時間外労働の抑制が進む一方、ホームルーム活動(71.9%)、部活動活性化(71.9%)、校内清掃(37.5%)等の肯定的回答については、予想されたことであるが、降下した。ただ、生徒回答では、行事・部活動・ホームルーム活動等の項目に肯定的回答の降下が見られないことを鑑みると、教員間の連携により対応できていると考える。	第 1 回学校運営協議会(令和 6 年 7 月 4 日) ・令和 7 年度 教科用図書の選定について ⇒ 承認<委員より> [学校への提言(抜粋)] ●デジタル化がさらに進んでいると感じる。先生方の苦勞が窺える。 ●スタントマンによる実演がある安全指導を計画していると聞き、リアリティがあり、興味を高め現場を客観視することの効果がどのように現れるか気になる。 ●国際交流(語学研修)において、事前の英会話レッスンをする丁寧さがよい。(大学での学びも同様)スモールステップで積み上げていくことは大切である。 ●部活動が縮小傾向である一方、体育祭などの学校行事が盛り上がりっており、どのような生徒かが気になる。 A：短期的な行事には楽しめるが、部活動等長期的な取組につながりにくい状況。 ●学校生活になじめない生徒が 2 年生で 10 人とあり、他学年の状況などは？ A：クラス替えにより、前のクラスが良かった等の不満をもつ生徒が多い。3 年は応援団の取組みで収束する。2 年は年度当初に学年全体で集団作りを行い、一定成果あり。 ●3 年生の学年指導のテーマの中に「積極的」とあり、みんなが向かっている姿が現れている。学年目標に「価値ある高校生活を」とあり、これこそ高校生の姿かと思われるので、充実させていただきたい。 第 2 回学校運営協議会(令和 6 年 11 月 27 日) [授業見学の感想] ●授業見学では学年ごとのカラーが見えました。1 年生は和やか、2 年生は大人と子どもの間、3 年生は集中力が高まる。また、校長先生が生徒に直接声かけしていて、生徒も動じていない様子から、生徒との距離感の近さを感じている。日頃から生徒の事を熱心に考えている。 ●初めて授業参観して、3 年生の机の上には荷物がたくさんあるのに驚きました。 A：荷物を机の引出しや下足室ロッカーに入れるように指導しているところです。粘り強く指導します。 [学校への提言(抜粋)] ●大学生が闇バイトに関わっていることが報道されている状況で、高校生にも警察を呼んで講義をしていただく等、犯罪への加害・被害防止講座等をお願いした。 ●小中高で携帯電話(スマートフォン)の使い方や、アプリ活用時の留意点等、正しく伝えなければならないと感じている。 ●スケアードストレート技法を活用した交通安全教室は、地域と連携しながら進めてもらいたい。 第 3 回学校運営協議会(令和 7 年 2 月 21 日) [学校への提言] ●令和 7 年度は、不登校(30 日以上)の生徒の縮減に向けて取組むとある。不登校対策の実践校によれば、学校に登校さえすれば、(先生方の関わりの中で)何とかなる、と聞く。交友の中で関係をうまく修復できず、不登校になるというのが今の状況です。生徒同士が怖い、教師が怖い等の要因がある中で、いかに学校に登校させるのが大切とはいえ難しい課題ですね。 ●不登校の要因として、コミュニケーションをとるのが苦手であることが考えられるが、そのような中で、プレゼンを授業に取入れ、みんなの前で話す場を設ける等、将来の力になる指導が実践されています。今の時代を生きていく子どもの大変さが伺えます。 ●防災意識について、災害発生時にどのようにするか、学校としていかがですか。 A：淀川決壊を想定し、垂直避難の訓練を実施しています。大阪北部地震の時は、地元の方々の避難場所として体育館を開放することになっており、当時は、生徒が素早く行動し、体育館フロアの(地震時に落ちた)塵の掃除をしてくれました。一方で、不審者対応マニュアルを昨年度に定め、教員間で情報共有し、対応について確認しています。 ●生活基本調査において「生徒手帳」の活用が学年進行で肯定回答が増えている中で、どのようにスケジュール管理をしていますか。 A：(私たちの世代が使っていた)小さい生徒手帳ではなく、(A 5 サイズ)スケジュール帳になっており、進路スケジュール等を書き込み、予定を把握する生徒が年々増えています。

府立大冠高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進	(1) 新学習指導要領をふまえた、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」の確実な実施	ア・経験年数の少ない教員の育成や教員間の共通理解を目的とした「しゃべり場」や公開授業を有効活用し、学校全体で授業改善を推進 イ・授業アンケート自己及び教科分析シートを各教員が振り返るとともに、観点別評価の進捗状況や授業見学等を通して、生徒に身に付けたい力を共有する。 ※様々な課題を抱える生徒が増える中、教育相談委員会で共有した情報をもとに、欠席の多い生徒には、オンライン学習やオンデマンド学習等の実施できる体制を整備し、継続的な学習活動を支援する。	ア 校内研修の毎学期実施、3 回以上〔4 回〕 イ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」85%以上〔84%〕	ア 公開授業・研究授業の研究協議も含め「しゃべり場」を各学期に1 回開催した。ICT 機器の活用事例や授業展開の工夫、新教育課程を通して実施した学年の振返り等の情報共有し、共通理解を深める校内研修は3 回実施した。(◎) イ 生活基本調査における生徒の「授業への満足度」は、89.6%で、昨年より向上した。単元目標の提示や説明の工夫、発表課題の設定等、主体的な学習活動に繋がる授業改善に取り組む。(◎)
1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進	(2) リーディング GIGA ハイスクール研究校として、1 人1 台の端末をより効果的に活用し、生徒が主体的に深く学ぶ授業改善への取組みの推進。	・電子黒板機能付きプロジェクタを積極的に活用し、1 人1 台端末を最大限有効活用した生徒の主体的に深く学ぶ授業改善への取組みを学校全体で推進する。	・生徒向け学校教育自己診断における「授業への ICT 活用の機会」の肯定率 90%以上〔84%〕	・学校教育自己診断(生徒)における「授業への ICT 活用の機会」の肯定率は、90.6%と、昨年以上に向上した。引続き、電子黒板による教材提示、課題の送受信等、教職員で事例を共有しつつ、授業改善を推進する。(◎)
2 夢と志を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	(1) 生徒の希望進路実現への取組み	ア・生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で連携し、充実を図る。 ・進路指導部と学年が協働し、外部関係団体等の協力のもと、1 年次より3 年間をととしての計画的な進路講習、キャリア教育の充実を図る。 ・進路探究 1 年生 職業(分野・職種等)について学び、2 年生では、興味関心のある分野について発表原稿をまとめて発信するとともに、他の生徒の発表を踏まえ、進路目標を固めることができるようにする。 1 年次は、職業に関するポスター発表、2 年次は、興味関心のある分野(大学・専門学校等で学びたいこと等)からテーマを選出し、シートにまとめ、オーラル発表する)	ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率 97%以上〔94.5%〕 ・生徒の希望進路実現率を4 年制大学、進学率 95%以上、就職 100%を維持〔89.4%、100%〕 ・探究発表の振返りににおける「自身の進路・専門分野等の選択に役立ったとの肯定率 70%以上 〔－〕	ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率は、96.8%であった。キャンパスツアー、分野別説明会の開催等、新たな取組も取り入れたことによる成果と捉えてる。引続き個々の自己実現に向け取組を進める。(○) ・生徒希望進路実現率は、4 年制大学 93.0%、就職 100%。引続き、一般入試を受験している生徒の取組支援を図る。(○) ・1 年生は、職業ガイダンス実施後に興味のある職業について、グループ毎にポスターに取りまとめた。2 年生では修学旅行の沖縄探究として、観光、環境(ごみ問題・生態系保全)、文化(言語・方言)等について調べ、プレゼン資料に取りまとめた。テーマ別の代表を選出し、学年集会の場でオーラル発表を行った。学校教育自己診断における2 項目「進路や生き方について考える機会がある」「将来の夢や目標に向けての努力」それぞれのクロス集計(肯定回答割合)は、84.5%、2 年次(2 学期末)段階で、進路実現に向けた具体的な取組意識が醸成されていることが班目した。〔○〕
	(2) 国際理解教育と英語教育の推進	ア・令和5 年度に復活した府立学校合同国際交流研修(オーストラリア)の企画運営を行い、国際理解教育を推進する。	ア・合同開催にあたっての課題が洗出されており、3 校で解決策を検討する。 ・参加生徒による研修報告会を開催し、体験成果の共有を図る。 ・事前学習や事後連携等、オンラインでの交流を模索する。	ア・福井高校・吹田東高校と合同開催により7/29～8/6 オーストラリアマザー高校との国際交流研修を実施した(生徒4 名、引率教員1 名)。T-NET による事前レッスン(9 回)や外部事業者による「グローバル体験プログラム」(2 回)を実施し、日常会話や現地でのマナー等を学習した。また、令和7 年度(計画)についても、複数業者による提案を吹田東高校と比較検討行い、募集の準備を進めている。(◎)

府立大冠高等学校

2 夢と志を持つ生徒の育成と キャリア教育の充実	(2) 国際理解教育と英語教育の推進	イ・英検の受験を奨励し、希望する生徒には、クラウドコンテンツでの情報配信や進捗確認等を行い、個別に学習支援を行う。 ウ・NET と連携し、『みんなの英会話』を開催し、課外で英語に親しむ取組を開催する。日常会話や、各国の文化等を英語で学び、参加生徒の英語学習への興味関心を高めるとともに、活用力の向上をめざす。	イ・30 人以上の英検受験者を確保する。 〔24 人〕 ウ・英語を楽しむ生徒が増えるよう、年間 5 回程度開催する。〔3 回〕	イ. 英語検定の受検者数は、3 名。 T-NET による Grade 別講習を各 4 ～ 6 回 行い、3 級 1 名、準 2 級 0 名、2 級 0 名 計 1 名が英検取得することができた(△) ウ. 放課後英会話レッスンは、15 回実施し 延べ 96 名が参加し、英語表現の応用力 育成を行った。(◎)
3 主体性及び継続力の向上	(1) 部活動の活性化 (2) 規範意識＝ 基本的生活習慣の 醸成	ア・減少傾向にある加入率の回復に向け、1 年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させるとともに、部活動大阪モデルを活用し、ペア校との交流を図る。 イ・部代表者会議で共通認識を図り、部活動の活性化策（退部率の減小案等）を検討する。 ・部員総会を開催し、互いの活動を発表し合うと共に、大冠としての連帯意識の向上を図る。 ア・イ クラブ員を中心に、生徒会と連携して、挨拶・遅刻・頭髮・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。 ウ・日々の清掃活動の徹底を図り、学習環境を整えるとともに、クラブ員・保健委員・美化委員、PTA と共にクリーンキャンペーンを年 1 回以上行う。 エ・朝の生徒（クラブ員・生徒会・生活委員中心による）挨拶運動を年 1 回以上行う。	ア・1 年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ 70%以上、10%以下にする。 〔60.6%、0%〕 イ・部代表者会議を学期に 2 回以上開催し、自治活動の支援を行う。 〔12 回〕 ア・イ 生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目のいずれも肯定率 85%以上を達成する。〔84%・81%〕 ・年間遅刻合計回数 2000 回以下 〔2770 回〕 ウ・生徒・教職員向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定率の増加〔71%・56%〕 エ・生徒による朝の挨拶週間を年 1 回以上行う。 〔5 回〕	・当初(5 月)の 1 年生クラブ加入率は 73% 11 月実施の 1 年生部員数調査では、63%と減じている。退部率 10%。1・2 年生としての加入率は、59%を維持しており自主的な部活動が継続的に行えるよう部活動の活性化を図る。 〔○〕 ・部活動代表者会議は、各学期 2 回、3 学期は新入生受入準備 4 回計 8 回実施した。挨拶励行、安全管理、学校 H P の更新(広報活動)等、生徒の主体的な運営について指導した。〔○〕 ア・イ 生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の肯定的回答は、それぞれ 89.9%、79.0%であった。生徒の肯定回答が 5 ポイント近く向上する一方で、保護者の理解は減じており、引続き、保護者への発信・連携に努める。〔○〕 ・年間の遅刻合計数は、3401 回と昨年より大幅に増加した。また、休みがちな生徒には、スクールカウンセラーの面談を設定し、困り感の解消に努め、登校を促した結果遅刻の数は増大した。一方で、30 日以上 の欠席者も、43 名と前年より増加しており、引続き、生徒支援の側面も踏まえた生活習慣の醸成に努める。〔△〕 ウ・生徒・教職員向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定回答は、それぞれ 74.4%、37.5%であった。定期考査ごとの丁寧清掃、行事ごとの大掃除を実施してきたが、生徒と教職員の意識に差があり、日常的な美化意識のさらなる醸成、具体的な取組を検討する必要がある。 〔△〕 エ 生徒会役員による朝の挨拶運動を実施した。(5 日間、のべ 35 名)。また、生徒自ら自分たちの行動を律することができるよう、『時間を守る』『校内美化』『交通マナーの順守』等の啓発ポスターを作成し、各 HR 教室に掲載した。〔◎〕 ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定回答は、98.1%一方で、不適切な言動が生起しており、引続き、様々な場面(授業・HR 活動・部活動等)で、啓発に努める。〔○〕 イ・生徒に関する情報交換(小委員会)を隔週で開催し、情報共有・対処策等の検討を行ってきた。また、定期考査時に教育相談委員会を開催し、個別対応状況を確認し、個別の支援を遂行した。学校教育自己診断(生徒)における「教育相談体制充実度」の肯定回答は 85.7%あり、引き続き、生徒支援の充実を図る。〔○〕
	(3) 人権教育と教育相談機能のさらなる充実	ア・人権教育企画委員会を活性化し、時勢に即した年間計画を策定し、あらゆる教育活動の中で、生徒の人権感覚を高めることができるよう取り組む。 イ・様々な課題を抱える生徒が増える中、生徒に関する情報交換(小委員会)や、教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門人材を活用した相談体制の充実を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定率 95%以上〔95%〕 イ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制充実度」の肯定率 86%以上〔86.9%〕	

府立大冠高等学校

4 広報活動と地域連携の充実	(1) 広報活動と地域連携の充実	ア・地元高槻を中心に、さらに枚方方面の中学校を意識し、北摂・北河内地域の中心にある学校として、学校説明会、クラブ見学会などにおいて、本校の取組みについて、広報と理解を図る。 イ・HP の積極的な更新に努め、本校の教育活動を公開し、地域の信頼に繋げる。 ・授業、クラブ、生徒会等における地域との交流機会をできる限り創出し、本校の活動を発信できるよう取り組む。	ア・学校説明会、クラブ見学会の参加者数の増加 [554 名・163 名] イ・HP を日々更新し、充実を図る [部活動：学期に 1 回/校長ブログ 129 回更新] ・生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の肯定率 60%以上 [70. 5%]	ア・学校説明会(～第 4 回)・部活動体験の参加者は、それぞれ 499 名、202 名。2 月直前開催を行う等、広報に努めた。 [○] イ・部活動の活動報告は、各学期 1 回配信するとともに、教育課程や高校生活について(校則)の改定等、また、校長ブログ(101 回)や、保護者限定ブログ(40 回)等で授業の様子や部活動・委員会等、生徒の活動状況を発信した。 [○] ・近隣保育施設の園児を招いた手作りコンサートや、吹奏楽部による施設への表敬演奏、生徒会執行部員による地域の祭りへのボランティアスタッフとしての参加、地域のお祭りでの和太鼓部による演奏、文化祭で作成した移動遊具を近隣保育施設への寄贈等、地域貢献活動を行った。生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する肯定回答率は、73. 0%と、生徒の達成感・意識がさらに高まった。 [◎]
5 「働き方改革」に向けた取組み 教員の資質向上と	(1) 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み	ア・防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。 イ・授業アンケート結果を教員が分析し、改善策を策定する等の PDCA サイクルを踏まえた授業改善を図る。 ウ・経験年数の少ない教員に対して管理職・首席等を中心に対話形式校内研修を継続して行う。 エ・全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。とりわけ、部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行えるよう校内体制を見直し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。	ア・年 2 回の避難訓練を実施し、緊急時の対応等を確認 [2 回] ・教職員対象に年 1 回以上の Web 安否確認を実施する。 [1 回] イ・授業アンケートにおける評価の平均値 3. 3 以上を維持 [3. 4] ウ・校内研修を毎学期実施し、3 回以上 [3 回] エ・年間時間外在校等時間 720 時間以上の教員 0 名をめざす。 [9 名]	ア・避難訓練と防災学習(のべ 2 回)実施。春は火災被害を想定し、水平方向への避難に加え、生徒・教職員の安否確認を行った。秋は、南海トラフ地震を想定し、避難時注意すべき点に加え、被災後の生活を踏まえた避難時にできること・やるべきことを各 HR で確認するとともに、教職員については Web 安否確認を行った。 [○] イ・授業アンケートにおける評価(平均)は前期 3. 37、後期 3. 38 と高い評価を得ている。とりわけ、「知識や技能が身についた感じている」は、3. 29 と高い評価を得ており、教職員の日々の授業改善の成果と捉えている。 [◎] ウ・初任教員には、首席・指導教諭による対話形式での校内研修を隔週実施した。 [○] エ・月平均 60 時間(年 720 時間)以上の超過勤務を有する教員は、9 名。学校全体の時間外在校時間(平均)は、36. 7 (R5 40. 0)と 3. 2 時間減じた。引き続き、部活動・行事等の付添分担や勤務時間の振替等の勤務時間管理を行い、教職員の健康管理に努める。 [△]